

科目名	初等教科教育法（国語）			担当教員	中村 哲也	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED2ETM201
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	1.小学校国語教育におけるカリキュラム、授業案の見方・作成についての基礎・基本を学び理解する。 2.小学生の言語発達の特性を踏まえた、国語科の指導方法について理解する。 3.教材研究、授業づくり、評価についての基礎的な知識、方法について理解する。					
授業の概要	小学校国語科教育の実践にかかわる教材の研究、その指導方法を中心に、国語科教育の歴史的展開、目標、内容、方法、評価、今日の使命等についての理論的かつ実践的に理解を深める。ビデオ、DVDなどの授業例や、小学校の具体的な国語教材を取り上げて検討しながら、教材研究、授業づくり、指導案作成などについて総合的な実践力を身につける。					

授業計画	
第1回	【事前の準備1回～2回】教科書の当該箇所を通読する 国語科教育の歴史的変遷と今日の課題――教科と教科書の特徴、「単元学習」「系統的指導」の解説
第2回	国語科学習指導要領における国語科の目的、内容、時間数 【事後学習1回～2回】「単元」「系統」についての復習と理解
第3回	【事前の準備3回～5回】音声言語についての指導要領と教科書の通読 「話すこと・聞くこと」①―音声言語指導の問題点と課題
第4回	「話すこと・聞くこと」②―「ディベート」「討論」「音読」小学校国語科の「話し合い」におけるICTの活用(PC,電子黒板の活用)
第5回	「話すこと・聞くこと」③―「話しことば」と「書きことば」の違い（含書写） 【事後学習3回～5回】資料等を振り返り音声言語についての理解する
第6回	【事前の準備6回～8回】書くことについての指導要領、教科書の通読 「書くこと」①―入門期(低学年)の指導（含書写）
第7回	「書くこと」②―生活作文、創作作文の教材と指導(含書写)
第8回	「書くこと」③―「メモ」「マッピング」の活用と作文指導 作文におけるICTの活用(PC,電子黒板の活用 【事後の学習】資料等を振り返り「書くこと」の多様性、教科としての重要性についての理解を深める
第9回	事前の準備9回～12回】読むことについて指導要領、教科書を通読 「読むこと」①―読解指導における「分析」と「解釈」
第10回	「読むこと」②―物語文の教材研究と指導法(低学年・中学年) 教材「スイミー」「お手紙」など
第11回	「読むこと」③―物語文の教材研究と指導法(高学年)教材「大造じいさんとがん」など
第12回	読むこと」④―説明文の教材研究と指導法 【事後学習 9回～12回】資料等を振り返り物語教材、説明文教材の違いを理解し、指導案作りへとつなげる。
第13回	【事前の準備 13回】授業の方法・技術について教科書を理解する。 授業づくりのための学習指導案に基づく模擬授業 (PC,電子黒板の活用) 【事後学習13回】学習指導案の作成と提出
第14回	【事前の準備14回～15回】言語、読書指導について指導要領、教科書の通読 「知識及び技能」(言語事項)―かな文字、漢字指導、書写、語彙の指導法(含書写)
第15回	読書活動の指導―読書教育と国語科の役割 【事後学習15回】資料等を振り返り言語、読書の指導法を理解する。

事前学修	2時間	自分が小学校の頃、どんな国語の授業を受けてきたかを振り返り、発表できるようにしておくこと。教科書や学習指導要領に眼を通し、疑問的などを整理しておくこと。
事後学修	2時間	授業全体を振り返り、今後、実践的に深めてみたい論点や指導法、教材研究などをまとめる。
フィードバックの方法	毎回の授業の際に、重要ポイントをまとめた用紙を配布する。毎回の授業のまとめは、個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

定期試験	60%	授業内容の理解度、基本的事項の理解度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	関心・意欲・態度、課題への取り組みなど、学びへの姿勢を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
あたらしい国語科指導法 七訂版	柴田義松/阿部昇/鶴田清司 (編著)	学文社	978-4-7620-3209-7	必ず七訂版を購入すること
参考資料	阿部昇『国語力をつける物語・小説の「読み」の授業』明治図書2015 阿部昇『国語力をつける説明文・論説文の「読み」の授業』明治図書2016 阿部昇『物語・小説「読み」の授業のための教材研究』明治図書2019 阿部昇『増補改訂版 国語力をつける物語・小説の「読み」の授業』明治図書2020 阿部昇『文章吟味力を鍛える』明治図書2003 鶴田清司『〈解釈と〈分析〉を統合する文学教育』学文社2010			

科目名	初等教科教育法（社会）			担当教員	須本 良夫
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ETM202
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験	小学校教諭(講師含む)				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、小学校社会科授業を展開する上でのポイントを教授する。				
到達目標及びテーマ	地域の自然や産業及び歴史や文化をどのように教材化すると、児童が意欲的に学習に立ち向かうかを、模擬授業等を通して理解する。				
授業の概要	学習指導要領をもとにして、小学校社会科の目標及び全体構造について理解するとともに、各学年の学習内容についての指導上の留意点について把握する。さらに実践の指導力を身に付けるため、社会科授業の組み立て方を具体的な授業を想定した学習指導案の作成や模擬授業を通して理解する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（授業の目的や概要及び事前事後に取り組むべきことについて）
第2回	小学校社会科のあゆみについて（初期社会科と現行社会科の特徴について）
第3回	学習指導要領社会科の目標及び学年ごとの主な内容について（特に「公民的資質の基礎」について）
第4回	教材研究の基本的な在り方と社会科授業の構成について
第5回	児童の認識・思考、学力の実態を視野に入れた社会科授業の設計について
第6回	第3学年の目標と内容（身近な地域の教材化を中心にして）
第7回	第4学年の目標と内容（都道府県の教材化を中心にして）
第8回	第5学年の目標と内容（我が国の産業の教材化を中心にして）
第9回	第6学年の目標と内容（大仏建立の教材化を中心にして）
第10回	学習指導案の作成(1)（情報機器の効果的な活用法を理解した授業設計及び評価の在り方について）
第11回	学習指導案の作成(2)（学習指導案「大仏建立」を作成しよう）
第12回	模擬授業（1）「大仏建立」（特に発問と指名の在り方を中心にして）
第13回	模擬授業（2）「大仏建立」（特にICT活用による対話を活かした授業の実際と板書の意義を中心にして）
第14回	社会科を教える教師としての基礎基本（1）（模擬授業の振り返りと教材研究の在り方）
第15回	社会科を教える教師としての基礎基本（2）（模擬授業の振り返りと教材研究の在り方のまとめ）

事前学修	2時間	テキストやプリントで示した重要事項について調べるとともに、学習指導要領をよく読んで授業に臨むこと。また、教科書や学習指導要を持参して授業に臨むこと。以下、15回まで同様とする。
事後学修	2時間	テキスト・プリントをもとにして、学び得たことをノートにまとめておくこと。
フィードバックの方法	毎時間評価したレポートを返却する。その際個別にコメントをするほか、どのような理解が望ましいのかを解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	講義内容をまとめ自分の考えが述べられている
上記以外の試験・平常点評価	40%	指導案作りや、模擬授業など積極的に参加をすることができる
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	○『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』 日本文教出版(2018/3/1) ISBN-13 : 978-4536590099 ○『小学校社会科教育』 学術図書出版社(2019/4/1) ISBN-13 : 978-4780606799			

科目名	初等教科教育法（社会）			担当教員	養島 一美
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ETM202
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	学芸主事・教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を生かし、小学校社会科授業を展開する上でのポイントを教授する。				
到達目標及びテーマ	戦後の学制改革期から現代に至る小学校社会科のあゆみや教科の構造及び各学年における指導の際のポイントなど、社会科指導の基礎的な事項が理解できる。				
授業の概要	前半は、戦後誕生した社会科がどのように移り変わってきたかを知るとともに、学習指導要領に示された各学年の目標や内容を理解し、教科書の内容にも注意しながら、社会的事象の意味を多角的に考えるとはどういうことなのかを講義する。また、各学年の代表的な教材を取り上げ、児童の認識や思考、学力の実態に応じた学習指導案の作成方法や学習評価の在り方等について講義する。後半では共通の教材として「低い土地の暮らし」を取り上げ、資料や情報機器の効果的な活用を考えて、第1時或いは第3時の学習指導案を作成し、「つかむ段階」（学習問題をつかむ段階）までの模擬授業をグループ内で行い意見交流を図る。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（授業の概要や進め方について知るとともに、授業の終末でまとめるレポートが評価の対象となることを理解する。レポートは、当該講義の概要をふまえた内容になっていること、及び適切な表現になっていることの両面から評価されることを理解する）
第2回	小学校社会科のあゆみについて（昭和22年に社会科が誕生した歴史的背景を知るとともに、学習指導要領の改訂によって教科等の構成や配当時数等が変わってきたことを理解する）
第3回	現行の小学校学習指導要領に示された社会科の目標及び学年ごとの目標や内容について（現行の学習指導要領で大切にされている資質・能力は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つに収斂されていることを理解する。またSDGsが、第6学年で大切にされていることにも触れて、身近なSDGsについて考える）
第4回	教材研究の基本的な在り方と社会科授業の構成について（第6学年の単元「大仏をつくる」等を例にして、「社会的事象の意味を多角的に考える」とはどういうことであるかを理解する。社会科は目に見える事実から、目に見えない事実（社会的事象のもつ意味）を追究する教科であることを理解する）
第5回	第6学年の目標と内容①（児童の認識・思考、学力の実態を視野に入れた社会科授業の設計について理解する。第6学年の第一単元となった「わたしたちの生活と政治」等の授業を例とする）
第6回	第6学年の目標と内容②（第6学年における歴史単元の指導について、単元「戦国の世から天下統一へ」や「町人の文化と新しい学問」をもとに理解を深める）
第7回	第5学年の目標と内容①（第5学年における日本の国土、食料生産の指導について、単元「わたしたちの国土」や「わたしたちの生活と食料生産」をもとに理解を深めるとともに、身近な地域教材の取り上げ方を知る）
第8回	第5学年の目標と内容②（第5学年における日本の工業生産の指導について、自動車産業を中心に理解を深めるとともに、身近な地域教材の取り上げ方や白地図を利用した作業学習の有効性を知る）
第9回	第4学年の目標と内容（第4学年で自分たちが暮らす都道府県の地理的環境の特色を取り扱うにあたり、岐阜県を教材とした場合の指導方法について理解を深める）
第10回	第3学年の目標と内容（第3学年で身近な地域や市区町村の地理的環境を取り扱うにあたり、岐阜市を教材とした場合の指導方法について理解を深める）
第11回	学習指導案の作成①（第5学年の単元「低い土地の暮らし」（岐阜県海津市）を取り上げて、木曾三川が合流する岐阜県の西南濃地域の地理的特徴をつかむとともに、ここで暮らす人々は昔から水害に見舞われながらも、自分たちの生命や財産を守るために、様々な努力や工夫をしてきたことを理解する。本単元の学習指導案作成にあたり、第1時或いは第3時を選択する）
第12回	学習指導案の作成②（第5学年の単元「低い土地の暮らし」（岐阜県海津市）について、第1時或いは第3時の展開案や細案を作成する）
第13回	模擬授業 第5学年の単元「低い土地の暮らし」（岐阜県海津市）（グループで授業の導入部分（つかむ段階）の模擬授業を見合い、意見・感想を交流する）
第14回	社会科を教える教師としての基礎基本①（グループ代表者による模擬授業を見て、社会科の授業を進めていく時に大切にしなければならないことを確認する）

第15回	社会科を教える教師としての基礎基本②（本講義の感想を述べるとともに、どうしたら社会科が好きな子が育つかを討論する）
------	---

事前学修	2時間	本シラバスで示した学年の目標や内容について学習指導要領を事前によく読んでおくこと。また、授業に合わせて学習指導要領の要旨を示した資料や教科書の本文を配付するので、各自でファイリングし、これを持参して授業に臨むこと。以下15回まで同様とする。
事後学修	2時間	講義の内容についてまとめたレポートは次の週に返却するので、学び得たことをノートにまとめておくこと。
フィードバックの方法	提出されたレポートの内容について評価し簡潔にコメントを記すので、よく読んで理解しておくこと。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	100%	毎時の課題について、講義の内容をふまえたレポートをまとめる。社会科という教科の本質が分かる。
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領 社会	文部科学省	日本文教出版	9784536590099	特に無し
参考資料	・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（東洋館出版社） ISBN978-4-491-04121-6 ・教科書「新しい社会」（東京書籍）、地図帳「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」（帝国書院） ・毎回の授業で配付された資料をを各自でファイリングし、見返すことができるようにすること。			

科目名	初等教科教育法（算数）			担当教員	黒田 大樹
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2ETM203
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	教育現場での経験から、教科書には書ききれてない子どもの理解の実態、誤答への対応等もディスカッションのテーマとして取り上げ、理解を深めるようにする。				
到達目標及びテーマ	小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、小学校学習指導要領解説算数編に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連して理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授業の概要	授業では、小学校学習指導要領解説算数編に示された算数科の目標や内容を理解すること、算数科における基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを柱とする。授業では単なるノウハウの習得に陥らないようにし、目標や育成すべき資質・能力についてもについても議論し、考えていく。そのために、具体的事例を多く取り入れたり、学習指導案作成・模擬授業などの演習も取り入れる。				

授業計画	
第1回	オリエンテーションならびに全国学力・学習状況調査問題の分析
第2回	算数科の目標（1） 学習指導要領と中央教育審議会答申等を踏まえて
第3回	算数科の目標（2） 学習指導要領の変遷と「数学的な見方・考え方」「数学的活動」「数学的に考える資質・能力」を中心に
第4回	算数科4領域の概観（1）「数と計算」領域
第5回	算数科4領域の概観（2）「図形」領域
第6回	算数科4領域の概観（3）「測定」「変化と関係」領域
第7回	算数科4領域の概観（4）「データの活用」領域
第8回	数学的活動と問題解決を中心とした授業について
第9回	授業をることから学ぶ 実際の授業ビデオの分析を通して、授業についての理解を深める 情報機器及び教材の効果的な活用、実際の子どもの動きを中心に
第10回	教材研究の仕方（1） 教科書をはじめとする教材の活用法を中心に
第11回	教材研究の仕方（2） 電子黒板、タブレット端末等の情報機器の活用法を中心に
第12回	学習指導計画作成のため考えること 学習指導案の目的など項目ならびに基本的内容を中心に
第13回	仮想指導案の作成 教材分析と予想さる子どもの活動を中心に
第14回	作成された仮想指導案の模擬授業と検討
第15回	まとめ

事前学修	2時間	各回の授業にあたっては、小学校学習指導要領解説算数編の該当する内容を読み、自分の課題を明確にする。予告された算数の問題がある場合は、その問題についての既習事項等を小学校学習指導要領解説算数編で調べておく。
事後学修	2時間	各回の内容を小学校学習指導要領解説算数編で確認をし、重要事項を整理し、ノートにまとめる。あるいは、授業中に作成しているノートに加筆する。授業で扱った問題については、さらに別の考え方はないかと追究をする。
フィードバックの方法	確認テストならびに仮想指導案の模擬授業と検討においては、総評を伝える。「出席カード」や「学修の振り返り」への記入を確認し、必要に応じて朱書きをして返却したり、次時において全体で話題にしたりする。場合により、個別指導を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	仮想指導案

上記以外の試験・平常点評価	70%	複数回の確認テスト。仮想指導案をもとにした模擬授業。授業ごとのプリントへの記述。ノートの記述。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説算数編	文部科学省	日本文教出版	978-4-536-59010-5	なし
参考資料	算数科教育の基礎・基本 算数科授業研究会著 明治図書 各出版社の小学校算数教科書 中央教育審議会答申（文部科学省ホームページ）			

科目名	初等教科教育法（算数）			担当教員	鈴木 明裕
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2ETM203
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	教育現場での経験から、教科書には書ききれてない子どもの理解の実態、誤答への対応等もディスカッションのテーマとして取り上げ、理解を深めるようにする。				
到達目標及びテーマ	小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、小学校学習指導要領解説算数編に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連して理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授業の概要	授業では、小学校学習指導要領解説算数編に示された算数科の目標や内容を理解すること、算数科における基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを柱とする。授業では単なるノウハウの習得に陥らないようにし、目標や育成すべき資質・能力についてもについても議論し、考えていく。そのために、具体的事例を多く取り入れたり、学習指導案作成・模擬授業などの演習も取り入れる。				

授業計画	
第1回	オリエンテーションならびに全国学力・学習状況調査問題の分析
第2回	算数科の目標（1） 学習指導要領と中央教育審議会答申等を踏まえて
第3回	算数科の目標（2） 学習指導要領の変遷と「数学的な見方・考え方」「数学的活動」「数学的に考える資質・能力」を中心に
第4回	算数科4領域の概観（1）「数と計算」領域
第5回	算数科4領域の概観（2）「図形」領域
第6回	算数科4領域の概観（3）「測定」「変化と関係」領域
第7回	算数科4領域の概観（4）「データの活用」領域
第8回	数学的活動と問題解決を中心とした授業について
第9回	授業を見ることから学ぶ 実際の授業ビデオの分析を通して、授業についての理解を深める 情報機器及び教材の効果的な活用、実際の子どもの動きを中心に
第10回	教材研究の仕方（1） 教科書をはじめとする教材の活用法を中心に
第11回	教材研究の仕方（2） 電子黒板、タブレット端末等の情報機器の活用法を中心に
第12回	学習指導計画作成のため考えること 学習指導案の目的など項目ならびに基本的内容を中心に
第13回	仮想指導案の作成 教材分析と予想する子どもの活動を中心に
第14回	作成された仮想指導案の模擬授業と検討
第15回	まとめ

事前学修	2時間	各回の授業にあたっては、小学校学習指導要領解説算数編の該当する内容を読み、自分の課題を明確にする。予告された算数の問題がある場合は、その問題についての既習事項等を小学校学習指導要領解説算数編で調べておく。
事後学修	2時間	各回の内容を小学校学習指導要領解説算数編で確認をし、重要事項を整理し、ノートにまとめる。あるいは、授業中に作成しているノートに加筆する。授業で扱った問題については、さらに別の考え方はないかと追究をする。
フィードバックの方法	確認テストならびに仮想指導案の模擬授業と検討においては、総評を伝える。「出席カード」や「学修の振り返り」への記入を確認し、必要に応じて朱書きをして返却したり、次時において全体で話題にしたりする。場合により、個別指導を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	仮想指導案

上記以外の試験・平常点評価	70%	複数回の確認テスト。仮想指導案をもとにした模擬授業。授業ごとのプリントへの記述。ノートの記述。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説算数編	文部科学省	日本文教出版	978-4-536-59010-5	なし
参考資料	算数科教育の基礎・基本 算数科授業研究会著 明治図書 各出版社の小学校算数教科書 中央教育審議会答申（文部科学省ホームページ）			

科目名	初等教科教育法（算数）			担当教員	長島 清司
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ETM203
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	教育現場での経験から、教科書には書ききれてない子どもの理解の実態、誤答への対応等もディスカッションのテーマとして取り上げ、理解を深めるようにする。				
到達目標及びテーマ	小学校算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、小学校学習指導要領解説算数編に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連して理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授業の概要	授業では、小学校学習指導要領解説算数編に示された算数科の目標や内容を理解すること、算数科における基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを柱とする。授業では単なるノウハウの習得に陥らないようにし、目標や育成すべき資質・能力についてもについても議論し、考えていく。そのために、具体的事例を多く取り入れたり、学習指導案作成・模擬授業などの演習も取り入れる。				

授業計画	
第1回	オリエンテーションならびに全国学力・学習状況調査問題の分析
第2回	算数科の目標（１） 学習指導要領と中央教育審議会答申等を踏まえて
第3回	算数科の目標（２） 学習指導要領の変遷と「数学的な見方・考え方」「数学的活動」「数学的に考える資質・能力」を中心に
第4回	算数科4領域の概観（１）「数と計算」領域
第5回	算数科4領域の概観（２）「図形」領域
第6回	算数科4領域の概観（３）「測定」「変化と関係」領域
第7回	算数科4領域の概観（４）「データの活用」領域
第8回	数学的活動と問題解決を中心とした授業について
第9回	授業をることから学ぶ 実際の授業ビデオの分析を通して、授業についての理解を深める 情報機器及び教材の効果的な活用、実際の子どもの動きを中心に
第10回	教材研究の仕方（１） 教科書をはじめとする教材の活用法を中心に
第11回	教材研究の仕方（２） 電子黒板、タブレット端末等の情報機器の活用法を中心に
第12回	学習指導計画作成のため考えること 学習指導案の目的など項目ならびに基本的内容を中心に
第13回	仮想指導案の作成 教材分析と予想さる子どもの活動を中心に
第14回	作成された仮想指導案の模擬授業と検討
第15回	まとめ

事前学修	2時間	各回の授業にあたっては、小学校学習指導要領解説算数編の該当する内容を読み、自分の課題を明確にする。予告された算数の問題がある場合は、その問題についての既習事項等を小学校学習指導要領解説算数編で調べておく。
事後学修	2時間	各回の内容を小学校学習指導要領解説算数編で確認をし、重要事項を整理し、ノートにまとめる。あるいは、授業中に作成しているノートに加筆する。授業で扱った問題については、さらに別の考え方はないかと追究をする。
フィードバックの方法	確認テストならびに仮想指導案の模擬授業と検討においては、総評を伝える。「出席カード」や「学修の振り返り」への記入を確認し、必要に応じて朱書きをして返却したり、次時において全体で話題にしたりする。場合により、個別指導を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	仮想指導案

上記以外の試験・平常点評価	70%	複数回の確認テスト。仮想指導案をもとにした模擬授業。授業ごとのプリントへの記述。ノートの記述。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説算数編	文部科学省	日本文教出版	978-4-536-59010-5	なし
参考資料	算数科教育の基礎・基本 算数科授業研究会著 明治図書 各出版社の小学校算数教科書 中央教育審議会答申（文部科学省ホームページ）			

科目名	初等教科教育法（理科）			担当教員	橋本 美彦
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1ETM204
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	小学校理科教育に関する指導法を学び、小学3年から小学6年までの学習内容や指導法について理解する。学生一人一人が45分間の模擬授業を行うために、指導案作成、予備実験、観察・実験準備を行い、問題解決的な授業のあり方を実践的に理解する。				
到達目標及びテーマ	到達目標及びテーマ： 1 小学校理科教育でどのような力を児童に育成するのかを考えることができる。 2 小学校理科教育の学習内容を児童の自然認識と関連させて考えることができる。 3 小学校理科教育と他教科との関連、実生活との関連、理科教育における言語活動について具体的に理解することができる。 4 児童が主体的に参加し、議論を通して深い学びができる楽しい理科授業づくりに必要な手だてを考えることができる。				
授業の概要	小学校教員免許状を取得希望の学生を対象した授業である。次期学習指導要領を見据え、日本の理科教育の変遷を学び、現在の理科教育の課題を明確にし、今後の理科教育の方向性を考える。これからの理科教育に必要な指導力を身につけさせるために、理論と実践力の両面を身につけさせるとともに、一人ひとりに理科学習指導案を書かせ、事前準備と予備実験を行い、45分間の模擬授業を行わせる。				

授業計画	
第1回	（事前課題）学習指導要領理科編に記載されている「生きる力」について調べる。日本の江戸時代の科学的な事柄について調べる。 「生きる力」を育む、主体的・対話的な深い学びを考える：理科教育で「生きる力」を育てるとは、具体的にどのような考え方で、どのように実践していくのかを考える。日本の科学（理科）教育の変遷を学び、現在の小学校学習指導要領の小学校理科の目標を知る。見方・考え方を働かせた授業とは何かを理解する。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第2回	（事前課題）学習指導要領小学校理科各学年の目標と内容を調べる。また、理科の見方・考え方について調べる。 小学校理科の目標と内容を考える：学習指導要領小学校理科の目標と内容を日本の戦後の理科教育の変遷や旧学習指導要領との比較から明確にする。全国学力・学習状況調査（小学校）の理科の問題を解き、学習指導要領が求める理科の資質・能力を理解する。また、調査結果をもとに児童の実態を理解する。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第3回	（事前課題）主体的・対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）について調べる。 問題解決的な学習を考える。：子どもから疑問を引き出し、それを問題として明確にし、解決していく過程をどう授業の中で仕組むかを考える。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第4回	（事前課題）素朴概念について調べる。 児童の自然のとらえ方を生かした授業：児童は、理科授業の課題に対してどのような捉え方をしているのか、児童の素朴概念を具体的に示しながら、それを生かした授業づくりを考える。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第5回	（事前課題）指導案について書かれた資料をまとめる。 理科学習指導案の形式と内容：児童が意欲的に参加する楽しい授業構想を表現する指導案の書き方やその基本形式や内容を学ぶ。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第6回	（事前課題）模擬授業の単元と授業時数を決め、指導案を作成する1（指導案提出） 理科学習指導案の作成：児童が意欲的に参加する楽しい授業を構想し、それを指導案に表現し授業実践の準備をする。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第7回	（事前課題）点検された指導案を書き直してくる2（指導案提出） 模擬授業実践1と研究協議：第3学年理科授業づくりのポイントを学ぶ。第3学年の模擬授業（指示、発問、板書、授業展開）の評価と研究協議内容への助言。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第8回	（事前課題）点検された指導案を書き直してくる3（指導案提出） 模擬授業実践2と研究協議。第4学年理科授業づくりのポイントを学ぶ。第4学年の模擬授業（指示、発問、板書、授業展開）の評価と研究協議内容への助言。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第9回	（事前課題）点検された指導案を書き直してくる4（指導案提出） 模擬授業実践3と研究協議。第5学年理科授業づくりのポイント1を学ぶ。第5学年の模擬授業1（指示、発問、板書、授業展開）

	の評価と研究協議内容への助言。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第10回	（事前課題）点検された指導案を書き直してくる5（指導案提出） 模擬授業実践4と研究協議。第5学年理科授業づくりのポイント2を学ぶ。第5学年の模擬授業2（指示、発問、板書、授業展開）の評価と研究協議内容への助言。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第11回	（事前課題）点検された指導案を書き直してくる6（指導案提出） 模擬授業実践5と研究協議。第6学年理科授業づくりのポイント1を学ぶ。第6学年の模擬授業1（指示、発問、板書、授業展開）の評価と研究協議内容への助言。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第12回	（事前課題）点検された指導案を書き直してくる7（指導案提出） 模擬授業実践6と研究協議。第6学年理科授業づくりのポイント2を学ぶ。第6学年の模擬授業2（指示、発問、板書、授業展開）の評価と研究協議内容への助言。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第13回	（事前課題）理科と総合的な学習の時間との関連を調べる。 理科と生活科、総合的な学習の時間との関連を考える：理科教育の歴史及びその歴史的背景、生活科や総合的な学習の時間の導入の経緯、そして、それらと理科教育との関連を考える。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第14回	（事前課題）理科の事故について調べる。 理科教材：実験観察の授業で用いる理科教材とその使用方法、及びその授業での安全（事故防止）に関する留意点を学ぶ。ものづくりの授業で用いる理科教材とその使用方法を学ぶ。飼育・栽培・野外観察の授業で用いる理科教材とその使用方法を学ぶ。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。
第15回	（事前課題）教育評価について調べる。 理科教育の評価：理科教育における評価の種類、どのような方法でどの能力が評価できるのかを考える。 （事後課題）本時の学修内容を記録プリントに整理する。

事前学修	2時間	各時間の学修内容に記載：次回の授業で取り扱う内容について予習する。また、模擬授業のための学習指導案の作成や教材作成を行う。
事後学修	2時間	各時間の学修内容に記載：講義内容を復習し、記録プリントにまとめる。
フィードバックの方法	個人で行った模擬授業について、「理科の見方・考え方を働かせた問題解決」「主体的・対話的・深い学び」「資質・能力の育成」などの観点からコメントする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		60%	計15回行う授業記録レポートを提出する。指定された観点で授業を分析できているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価		40%	模擬授業の指導案，授業準備，実際の模擬授業を評価する。
定期試験		0%	実施しない
補足事項	授業記録レポートは第1回から第15回の計15枚を提出する。模擬授業以外の時間に行う実験の技能もレポート内記録として評価する。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編	文部科学省	東洋館出版社	978-4491034638	なし
参考資料				

科目名	初等教科教育法（生活）			担当教員	柘植 良雄
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3ETM205
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場や行政（人事及び教科等指導）の経験を生かし、小学校低学年の教育課程の「要」としての生活科学習の在り方や教師の具体的な指導・援助の在り方を講義する。				
到達目標及びテーマ	学習指導要領及び生活科の授業や学習環境等の映像をもとに、生活科が学校現場の教育課程の「要」としての役割であることやその具体的な指導の在り方が分かる。また、附属幼稚園、附属小学校で観察実習をし、5年間の子どもの発達段階の変化を自分の目で確かめるとともに論ずることができる。そして、気づきの質的な高まりを踏まえた指導計画案や授業展開案を作成して検討し合うことができる。				
授業の概要	本講義では、低学年児童の発達段階を踏まえ、具体的な活動や体験を通して「自立し生活を豊かにしていくこと」を目指す生活科の教科特性や、学問的な背景等を明らかにする。そして、附属幼稚園、附属小学校で観察実習をし、5年間の子どもの発達段階の変化を自分の目で確かめ、互いに論じ合う。気づきの質的な高まりを踏まえた指導計画案や授業展開案を作成して検討する。				

授業計画					
第1回	生活科の特質「生活科授業の視聴」と本講義の学び方（オリエンテーション） ・生活科における教師のエデュケーターとしての関わり 小課題：「なぜ生活科を低学年に新設する必要があったのか？」テキストP1～P14参照				
第2回	生活科新設の経緯と学習指導要領の変遷 ・子どもの発達段階と生活科の前身 小課題：「生活科の教科目標・学年目標とは何か」 テキストP16～P20参照				
第3回	生活科の教科目標とその特質 ・「目標」の表記の構造と読み方 小課題：「内容構成の視点、具体的な学習対象とは何か」 テキストP21～P25、P178～P181参照				
第4回	生活科の目標・指導内容を細かく理解する（その１） ・「資質・能力の3本柱」はこうして生まれた 小課題：「直接体験が重視される理由とは何か」				
第5回	生活科の目標・指導内容を細かく理解する（その２） ・生活科ほど細かく示された内容の表記は他にはない 小課題：「気づきの質的な高まりとは何か」 テキストP26～P36参照				
第6回	生活科の目標・指導内容を細かく理解する（その３） ・ここまで詳細に分析的に表記されている 小課題：「気づきの質的な高まりの具体例を考える」（レポート）テキストP26～P36参照				
第7回	生活科における「気づき」とその「質的な高まり」 ・気づきとは？ ・質的に高まるとは？ 小課題：「生活科の'学習の成立'とは何か」 テキストP38～P59参照				
第8回	【幼稚園実習】附属幼稚園参観：「思考と活動の一体化」と教師の支援 小課題：「本時の参観内容から」（レポート）コロナ等で参観が不可能な場合は、NHKビデオ等を活用する。 テキストP182～P210参照				
第9回	保・幼・小の接続期プログラム 小課題：「保・幼と小の接続を高めるには？」 テキストP140～P155参照				
第10回	スタートカリキュラム、アプローチカリキュラム ・環境の変化と学び方の変化				
第11回	【小学校実習】附属小学校参観：「発達段階に応じた教師の支援の在り方とタブレット等の情報機器の有効的な活用」 コロナ等で参観が不可能な場合は、NHKビデオ等を活用する。 小課題：「本時の参観内容から」（レポート） テキストP182～P210参照				
第12回	「指導案作成の基本」をマスターする 小課題：「教材選択と1時間の学習展開案の作成」 テキストP112～P118参照				
第13回	生活科指導計画の作成 小課題：「形成的評価を考慮した学習指導案とは何か」 テキストP82～P100参照				
第14回	生活科授業案の作成と交流① ・導入～課題づくり、PCを活用した教材の効果的な提示のあり方 小課題：「指導案の修正と提出」テキストP130～P137参照				
第15回	生活科授業案の作成と交流② ・授業の評価と教師の支援のあり方 小課題：「指導案の完成と提出」				

事前学修	2時間	毎回各授業の終了時に次時の学習課題に関わる小課題を提示する。テキストや配付資料等をもとにして自分なりに課題について調べる。
事後学修	2時間	授業での配付資料及びテキストをもとにして、本時の授業を復習しながら本時の授業ノートを完成させ、ノートを写真撮影して期限内にユニバにアップする（課題提出）。

フィードバックの方法	毎時間の学習ノートと小課題をもとに、一人一人の学び方と取り組み姿勢を評価し、小課題の最適解を講義で紹介する。また、レポートについては個別にコメントし、学びを総合的に評価・指導できるようにする。
------------	--

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		40%	子供の発達段階などポイントを押さえた指導計画や指導案が作成できたか。
上記以外の試験・平常点評価		60%	毎回の授業ノート（含：事前・事後学習）が自分の言葉でまとめられたか。
定期試験		0%	
補足事項	コロナ等の感染状況を考え、いつでもオンライン授業に対応できるよう事前にノートと講義資料をPDFファイルでユニバにアップしておきます。対面授業では、ノートをその都度授業で配布します。毎回、授業後に各自でノートを整理し、携帯カメラでノートの表と裏を別々に撮影し（jpegファイル）、必ず期日までにユニバにアップしてください。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
生活科で子どもは何を学ぶか	須本良夫・他	東洋館出版	978-4-491-03503-1	C3037
小学校学習指導要領解説（生活編）	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03464-5	C3037
参考資料				

科目名	初等教科教育法（生活）			担当教員	大山 夏生
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3ETM205
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、実際の授業の仕方や子供への指導・援助のあり方、指導案の作成等について講義する。				
到達目標及びテーマ	学習映像や子供の姿、指導教員の低学年指導の実際を紹介するなどして授業を展開する。				
授業の概要	本講義では、低学年児童の発達段階を踏まえ、具体的な活動や体験を通して「自立し生活を豊かにしていくこと」を目指す生活科の教科特性や、学問的な背景等を明らかにする。そして、授業映像や優れた実践事例を視聴することで、気付きの質的な高まりに向けた実践的な指導のあり方を学ぶ。また、これらを踏まえて実際におもちゃ作り体験をしたり、学生同士での意見交流をしたりすることを通して、素材の教材化と学習指導案を作成することができるようにする。				

授業計画	
第1回	生活科の特質「生活科授業の視聴」と学習の進め方、事前・事後学習について 課題：「生活科授業への自己課題」
第2回	生活科の新設と学習指導要領改訂の経緯 課題：「生活科新設の経緯」
第3回	学習指導要領改訂の趣旨と生活科の目標 課題：「生活科の教科目標・学年目標」
第4回	生活科の内容構成とその読み取り 課題：レポート「本時学んだことの振り返り」
第5回	直接体験を重視した生活科の学習活動と遊びの意義 課題：レポート「本時学んだことの振り返り」
第6回	生活科における安全指導、「気付き」の定義 課題：レポート「本時学んだことの振り返り」、8回までの課題：おもちゃの制作とそのレポート
第7回	「気付き」、その質的な高まりと指導の在り方 課題：レポート「本時学んだことの振り返り」
第8回	おもちゃ作りの交流、気付きの質の高まりの具体 課題：レポート「気付きの質の高まりの分析」
第9回	就学前教育と小学校教育との接続 課題：レポート「本時学んだことの振り返り」
第10回	幼小接続とスタートカリキュラムの具体 課題：「これからの幼小連携と接続の進め方」
第11回	主体的・対話的で深い学びを実現する授業の具体「授業動画から学ぶ」 課題：レポート「本時学んだことの振り返り」
第12回	「指導案作成の基本」をマスターする 課題：「教材選択と単元構想案」
第13回	生活科指導案（本時案）作成のポイント 課題：「学習指導案の作成に着手」「学習のねらい」
第14回	生活科の評価と教師の言葉かけ 課題：「評価と言葉かけ」
第15回	本講座で学んだことの振り返り、指導案完成 課題：「指導案の完成、最終レポート」

事前学修	2時間	毎回各授業の終了時に次時の学習課題に関わる小課題を提示する。テキスト等をもとにして自分なりに課題について調べ、次時にレポートとして提出する。
事後学修	2時間	授業での配付資料及びテキストをもとにして、授業を復習するとともに本時の課題、振り返りレポートを完成させる。
フィードバックの方法	毎回の学習課題及び授業ノートの記録をチェックし、評価する。また、学習課題は次時の講義の事前調べでもあり、授業の中で最適解が得られるようにしたり、模範解答を示したりする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	本講座での学びをもとに生活科指導案、振り返り最終レポートを作成できたか評価する。
上記以外の試験・平常点評価	60%	授業ノート（予習や復習）が分かりやすく、自分の言葉でまとめられているかを評価する。

定期試験		0%	定期試験は実施しない
補足事項	上記以外の試験、平常点評価： （割合）60％ （評価基準等）授業ノート（予習や復習）が分かりやすく、自分の言葉でまとめられているかを評価する。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
「生活科で子どもは何を学ぶか ～キーワードはカリキュラム・マネジメント～」	須本良夫	東洋館出版社	9784491035031	持っている学生がいる可能性有り
小学校学習指導要領解説生活編	文部科学省	東洋館出版社	9784491034645	https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afile/2019/03/18/1387017_006.pdf
参考資料	（参考資料） 適宜紹介 毎時間授業プリントを活用			

科目名	初等教科教育法（音楽）			担当教員	宮部 和男
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ETM106
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	小学校・中学校での音楽授業				
実務経験を生かした授業内容	小学校・中学校9年間の系統を見据え、児童の思考にたち、個々の感性を引き出す授業づくり				
到達目標及びテーマ	・表現領域(歌唱・器楽・音楽づくり)及び鑑賞領域について、学習指導内容に示された内容と低・中・高学年の系統を理解し、それぞれの分野における授業のあり方について説明できる。【知識・理解】 ・歌唱指導や器楽指導でどのような技能が児童に必要な明らかにし、表現技能を高める指導について、指導案を書くことができる。【技能】 ・模擬授業の実施や省察をととして、児童の側にたった授業についてねらい、内容、指導方法などについて論ずることができる。【態度】【知識・理解】【技能】				
授業の概要	音楽活動は、本来表現のひとつの方法であり、そこでは、誰もが内面にもつ「表現したい」という気持ちをいかに引き出すかを工夫しなければならない。言い換えれば、音楽科の指導は、技術よりも子どもの表現をいかに引き出すかがポイントとなる。この授業では、教材を演奏するなどしながら、子どもにとっての音楽の意味、学校教育における音楽科の位置づけなどを考えていきたい。生涯音楽を楽しむもうとする気持ちをもった子どもの育成が目標のひとつでありたい。同時に教師自身が技能に自信がなくても音楽の授業ができる、実践力を身に付けていくことを目的とする。				

授業計画	
第1回	1. (内容のキーワード) オリエンテーション ①授業計画 ②学習内容 ③評価 ④模擬授業の計画 ⑤仲間づくり遊びと児童の実態 2. (学習内容) 教材分析を通して単に「歌える、演奏できる」ことを求めるのではなく、音楽的な力を身に付けることこそが重要であることを学ぶ。 3. (到達目標) 教科としての音楽の存在について理解することができる。歌唱教材を分析し、リズム、旋律、和声などの音楽的な視点をもつことで学習が展開されることを理解できる。 ※各講1. 2. 3の内容は上記()と同様
第2回	1. 学校教育に音楽科が存在することの意義 ①学習指導要領の変遷 ②小学校音楽科学習指導要領の内容(音楽科の目標) ③歌唱教材の分析 2. 戦前の音楽科教育の流れを理解し、戦後の音楽教育との違いを学習し、音楽教育の考え方を学ぶ。 3. 明治以降の唱歌科の歴史的な変遷、戦後示された「音楽科教育の理念」、教科の本質について理解することができる。
第3回	1. 小学校学習指導要領の理解 ①表現領域(歌唱・器楽・音楽づくりの3分野)と鑑賞領域の指導事項と指導計画の作成 ②音楽科における表現技能 ③歌唱教材の分析 ④音楽的な要素 2. 学習指導要領に示された内容を理解し、音楽科の指導内容について学ぶ。 3. 音楽科の全体像について知るとともに、「指導計画の作成及び内容の取扱い」の各項目の内容について理解することができる。
第4回	1. 題材構成の考え方 ①音楽科における題材構成 ②教材を教えることとの違い ③教科書教材の配列 (グループワーク) 2. その楽曲の指導ではなく、題材による指導の考え方。題材一つたい力ー技術の習得 など題材構成による指導について学ぶ。 3. 教科書に示された題材構成の考え方を分析し、題材構成による指導について理解することができる。
第5回	1. 指導案の作成Ⅰ ①指導案とは何か ②指導案の内容 ③教材分析と身に付けたい力 ④指導案を書く手順 2. 指導案を作成し、ねらい、課題、評価が一貫していることが指導過程を支えることを学ぶ。 3. 課題成立までに焦点をあて、身に付けたい力を意識した指導過程について議論することができる。
第6回	1. 指導案の作成Ⅱ ①教材研究 ②指導展開 ③評価 2. 指導案の書き方の手順を知り、実際に指導案を書くことができる。(グループワーク) 3. 歌唱教材を取り扱った指導案を作成し、模擬授業の準備につなぐことができる。
第7回	1. 模擬授業の準備 ①教材研究 ②授業展開(指導過程)の検討 2. 教材分析の方法を知り、それぞれの教材の音楽的な要素への着目、付けたい力との関連を学ぶ。 3. それぞれの教材の特徴、よさ、魅力をいかしながら、音楽的な力をつける授業展開(指導過程)の作成ができる。
第8回	1. 歌唱表現の指導Ⅰ ①学年による系統 ②歌唱教材の分析と授業展開 ③歌唱指導の実際 2. 歌唱分野で指導する内容と低学年から高学年までの系統的な身に付けたい力や題材の配列について学ぶ。 3. 学習指導要領の歌唱分野の内容を学年ごとに整理し、その系統を理解し、身に付けたい力をどのように取りあげているか理解できる。
第9回	1. 歌唱表現の指導Ⅱ ①歌唱表現での指導内容 ②教材分析と身に付けたい力との関連 2. 歌唱分野での実際の指導をととし、低学年、中学年、高学年の指導内容について学ぶ。

	3. 学習指導要領の歌唱分野の内容を学年ごとに整理し、その系統を理解し、身に付けたい力をどのように取りあげているか説明できる。
第10回	1. 器楽表現の指導Ⅰ ①学年による系統 ②器楽教材の分析と授業（講義） ③器楽指導の実際（リコーダー指導の留意点 リコーダーの魅力） 2. 器楽分野での指導内容とその系統とリコーダー導入期の留意点について学ぶ。 3. 実際にリコーダーを演奏し、ねらい、児童の実態、つまづきなどについて理解することができる。
第11回	1. 器楽指導の指導Ⅱ ①学年による系統 ②器楽教材の分析と授業 ③器楽指導の実際（鍵盤ハーモニカ指導の留意点 鍵盤ハーモニカの魅力） 2. 器楽分野での指導内容とその系統と鍵盤ハーモニカ導入期の留意点について学ぶ。仲間の演奏を聴くことで、鑑賞領域についても学ぶ。 3. 実際にリコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏し、アンサンブルを楽しみ、ねらい、児童の実態、つまづきなどについて理解することができる。
第12回	1. 模擬授業の実施と相互評価Ⅰ ①模擬授業の実施 ②授業を観る視点 ③授業の評価 2. 授業記録を取りながら、ねらいに沿った指導展開かどうか、視点をもちながら授業を観ることを学ぶ。 3. 模擬授業の実施と参観をととして、ねらいと実際の指導展開などの関連など、授業観をもつことができる。
第13回	1. 模擬授業の実施と相互評価Ⅱ ①模擬授業の実施 ②授業を観る視点 ③授業の評価 2. 授業記録を取りながら、ねらいに沿った指導展開かどうか、視点をもちながら授業を観ることを学ぶ。 3. 模擬授業の実施と参観をととして、ねらいと実際の指導展開などの関連など、授業観をもつことができる。
第14回	1. 模擬授業の実施と相互評価Ⅲ ①模擬授業の実施 ②授業を観る視点 ③授業の評価 2. 授業記録をとりながら、ねらいに沿った指導展開かどうか、視点をもちながら授業を観ることを学ぶ。 3. 模擬授業の実施と参観をととして、ねらいと実際の指導展開などの関連など、授業観をもつことができる。
第15回	1. 全体の総括 ①授業実践・音楽指導にあたっての要点の整理 ②学習指導要領と音楽教育 ③学習到達度の確認試験 2. グループディスカッションにより音楽科における「探求的な学び」について論ずることができる。 3. これまでの学習をいかして楽曲の特徴、魅力、音楽的要素により楽曲分析をし、演奏を楽しむことができる。

事前学修	2時間	範唱や弾き歌い、演奏課題について早期から継続的に取り組むこと。各講1に示した内容について、「小学校学習指導要領解説音楽編」、教科書、配付資料の該当箇所をよく読んでおくこと。グループ学習に主体的、積極的に参加し、目標（各講3）の到達に向けて努力をすること。
事後学修	2時間	音楽科の指導目標と指導内容を整理し、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の各分野について指導の意義と留意点を整理しておくこと。教科書は大変優れた教材である。基礎的なことがわかりやすく、系統的に示されており、教科書に十分目を通すことで楽しい音楽授業のヒントが得られる。
フィードバックの方法	学習内容をミニレポートにまとめて提出してもらう。それをもとに批評を受け、学習内容を自分のものとするができるようにする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		40%	指導案作成、教材分析の内容、授業内容の理解をレポート評価する。
上記以外の試験・平常点評価		60%	共通教材伴奏及び歌唱、鑑賞教材，講義中の音楽活動参加態度などで定着度を測る。。
定期試験		0%	実施しない
補足事項	初回のオリエンテーションで今後の授業について、説明をします。この授業は、講義と演習を毎時間組み合わせでおこなっていきます。自分で表現し、聴き、考えることに意味があります。したがって出席は最重要視します。無断欠席が3回重なると失格になります。やむを得ず欠席する場合には事前にメールで連絡をしてください。それぞれのレポート（指導案を含む）は実践力を高めるための自分の財産となります。時間をかけて丁寧に仕上げてください。器楽表現の指導についてはソプラノリコーダーを使用します。練習や楽器については授業の中で指示をします。※鍵盤ハーモニカが用意できる人は準備をしてください。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生のおんがく1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4877889845	令和6年度版
小学生の音楽2	教育芸術社編	教育芸術社	978-4877889852	令和6年度版
小学生の音楽3	教育芸術社編	教育芸術社	978-4877889869	令和6年度版
小学生の音楽4	教育芸術社編	教育芸術社	978-4877889876	令和6年度版
小学生の音楽5	教育芸術社編	教育芸術社	978-4877889883	令和6年度版

小学生の音楽6	教育芸術社編	教育芸術社	978-4877889890	令和6年度版
小学校学習指導要領解説 音楽編	文部科学省	東洋館出版社	978-4491034652	平成29年7月
参考資料	・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 音楽 国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東洋館出版社 978-4491041254 ・改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用 初等科音楽研究会編 音楽之友社出版 978-4276821026 ・小学校のおんがく1.小学校の音楽 2 -6 指導書伴奏編 教育芸術社			

科目名	初等教科教育法（音楽）			担当教員	宮本 賢二郎
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ETM106
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	初等音楽の指導目標、指導内容について必要な知識、技能の基礎を修得する。音楽科授業の指導方法について、学んだ理論が模擬授業でどのように生きたのか、あるいは、実際には役に立たなかったのか、であればどのようにしたらよいのか、理論と実践についても自己の模擬授業及び、他のグループの模擬授業の観察を通し批判的に省察し、先に行ったグループの事例から学び自分の模擬授業に生かすことで理論と実践の往還をめざす。模擬授業を主体的かつ協働的に準備・練習していくことで、その学びが学校現場における主体的・かつ協働的な学びと相似形をなすことを目指す。				
授業の概要	初等音楽Ⅰを踏まえ、様々な音楽や音楽活動、初等音楽科教材について、実技・理論両面での多面的な学修を行う。活動の領域や分野ごとに、実践事例を交えながら指導の意義や留意点を捉え、教材についても考察する。それらをもとに、グループごとに協働で指導計画の作成、模擬授業実践を行い、10回の模擬授業を行い、相互評価を行う。こうして模擬授業の実践と観察を重ねることで、クラス全体として、児童が、自ら主体的かつ協働的に学ぶ授業観を探究していく。				

授業計画	
第1回	1.導入：課題と日程、児童の発達と音楽 2.グループ活動：模擬授業教材曲検討・協働的な準備について、（次回までに教材決めと授業日決定）
第2回	1. 学習指導案作成の実際 ①指導計画と評価規準 ②学習指導案作成の手順 2. .グループ活動：本時の展開前までを作成
第3回	1. 学習指導要領の理解 ①目標と内容②発達段階と音楽能力 2. グループ活動：指導案中間発表 自分のグループの扱う単元と授業時の学習目標・評価規準はなにか。
第4回	1. 歌唱・器楽・音楽づくりの指導と留意点。2.グループ活動：教材の評価規準を確認し、指導書に提案された本時の展開を理解する。
第5回	1. ①鑑賞の指導と留意点 ②伴奏パターン、和音 ③.輪唱への導入 2.グループ活動：本時の展開中間発表「本時は何を学ぶべき時間なのか」（クロスディスカッション）
第6回	1. ①他教科・総合との関連 ②特別支援教育との関わり 2. グループ学習：展開部分原案完成
第7回	1.①多様な音楽文化 ②範唱・指揮の活用 2. グループ活動：本時の展開の概要プレゼン：ロイロノート
第8回	模擬授業 低学年1年と2年 7-9人 x 2グループ 40分 1年 「うみ」を除く 2年 「虫のこえ」を除く
第9回	模擬授業 中学年 3年生 7-9人 x 2グループ 40分 「茶つき」「うさぎ」を除く
第10回	模擬授業 中学年 4年生 7-9人 x 2グループ 40分
第11回	模擬授業 高学年 5年生 7-9人 x 2グループ 40分
第12回	模擬授業 高学年 6年生 7-9人 x 2グループ 40分 （レポート課題提出第13回前日20:00）
第13回	①模擬授業振り返り・クロスセッション ②輪唱・リコーダーテスト準備
第14回	輪唱テスト
第15回	学習全体を振り返り、授業実践・音楽指導にあたっての要点を整理し、全体の総括とする。学修達成度の確認テスト /グループディスカッション：音楽科における探求的な学びとは。

事前学修	2時間	範唱・弾き歌い課題について早期かつ継続的に取り組むこと。シラバスに記された項目について、学習指導要領および「初等科音楽教育法」の該当箇所をよく読んでおくこと。 模擬授業の指導案の書き方・授業組み立てについては、できるだけ事前に相談に来ること。
------	-----	--

事後学修	2時間	音楽科の指導目標と指導内容を整理し、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の各分野について指導の意義と留意点を整理しておくこと。実際に、曲例を挙げて教材研究を行ってみること。
フィードバックの方法	総評を口頭または配信するかたちで行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		40%	指導案の基本事項、授業内容・構成を重視する。割合は他の試験の難易度により増減する場合がある。
上記以外の試験・平常点評価		60%	共通教材伴奏及び歌唱、鑑賞教材、最終確認テストにより知識と技能の定着度を測る。
定期試験		0%	実施しない
補足事項	第1回から7回までの講義内容についてユニパ上で小テストを行います。テストの一つとして歌唱範唱、および弾き歌いを課す。自分のグループが模擬授業で扱う共通教材曲を1度目は無伴奏で歌い、2度目はピアノ伴奏で歌ったものを動画で録画し提出すること。その際、無伴奏の時は開始音をピアノで弾いてから歌うこと。左手が和音・分散和音の伴奏とし、単旋律のみの伴奏は不可とする。教科書・指導書の伴奏、「楽典＆ドリル」の伴奏B、または左手の和音伴奏を使用すること。ただし選択する伴奏の難易度により配点（満点）が変わる。歌詞は1番のみとする。提出期限、提出方法などの詳細、およびこのほかの課題・テストについては別途配信説明します。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版初等科音楽教育法	初等科音楽教育研究会編	音楽之友社	未定	なし
小学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	未定	令和6年度版
小学生の音楽2	教育芸術社編	教育芸術社	未定	令和6年度版
小学生の音楽3	教育芸術社編	教育芸術社	未定	令和6年度版
小学生の音楽4	教育芸術社編	教育芸術社	未定	令和6年度版
小学生の音楽5	教育芸術社編	教育芸術社	未定	令和6年度版
小学生の音楽6	教育芸術社編	教育芸術社	未定	令和6年度版
楽典＆ドリル 改訂版	村田睦美・小見山純一・深貝美子	三恵社	未定	令和6年度版
参考資料	学習指導要領 音楽編 学習指導要領解説 音楽編 小学校の音楽1-6 指導書 伴奏編			

科目名	初等教科教育法（図画工作）			担当教員	桂川 成美	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2ETM107
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や児童の表現の理解について講義する。					
到達目標及びテーマ	児童の表現を認め、生き生きとした活動を支えるため、小学校学習指導要領の内容を理解し、実践的な指導力を身につけることを目標とする。小学校における美術教育の役割を学ぶ。					
授業の概要	学習指導要領を理解するため、教材研究、学習指導案作成、作成した指導案に基づき模擬授業をおこなうなどする。また、指導に携わる者にふさわしい美術に関する基礎理論、技法、美術史を学ぶ。					

授業計画		
第1回	学習指導要領の構成	目標：学習指導要領の内容の理解
第2回	図画工作科の目標・表現と鑑賞	目標：学習指導要領の内容の理解
第3回	教科の特徴・教材の効果的な活用のための材料、情報機器を含む用具、環境整備等	目標：指導者として準備すべきことの理解
第4回	指導案を読む－年間計画について	
第5回	指導案を読む－低学年・高学年の内容	目標：指導案の内容、書き方の理解
第6回	教材研究「材料から」－材料の特性を生かした教材の理解と、それを生かすための道具の使用法	
第7回	教材研究「材料から」－教材の提案	目標：材料の特徴を生かした教材づくり
第8回	指導案作成 目標：指導要領に基づいた指導案づくり	
第9回	教材研究「主題から」－主題を基にした教材の理解	
第10回	教材研究「主題から」－教材の提案	目標：指導要領に基づいた教材づくり
第11回	指導案作成	目標：学年にあった内容に設定できる
第12回	指導案発表	
第13回	模擬授業	目標：実践的な指導法の理解 （材料、情報機器を含む用具と環境を中心とした）
第14回	美術基礎理論・技法・美術史－美術用語、技法の確認	
第15回	美術基礎理論・技法・美術史－鑑賞を基にした日本美術史、西洋美術史の理解	目標：指導力の強化

事前学修	2時間	小学校学習指導要領の予習。指導要領の構成、目標、内容についての予習。資料を読み疑問点を見つける。必要な材料、用具の用意。教材資料の準備。
事後学修	2時間	学習指導要領の内容の理解。指導要領の構成について復習する。指導案などを読み、配布資料をまとめ、理解を深める。指導案の内容、対象学年による計画の違いを復習する。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省	日本文教出版	9784536590112	なし
つくる・見る・学ぶ 美術のきほん	京都市立芸術大学美術教育研究会 日本文教出版編集部	日本文教出版	9784536649995	なし
参考資料	授業においてプリントを配布			

科目名	初等教科教育法（図画工作）			担当教員	隼瀬 大輔、山田 唯仁	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED2ETM107
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や児童の表現の理解について講義する。					
到達目標及びテーマ	児童の表現を認め、生き生きとした活動を支えるため、小学校学習指導要領の内容を理解し、実践的な指導力を身につけることを目標とする。小学校における美術教育の役割を学ぶ。					
授業の概要	学習指導要領を理解するため、教材研究、学習指導案作成、作成した指導案に基づき模擬授業をおこなうなどする。また、指導に携わる者にふさわしい美術に関する基礎理論、技法、美術史を学ぶ。					

授業計画			
第1回	学習指導要領の構成	目標：学習指導要領の内容の理解	担当者：山田
第2回	図画工作科の目標・表現と鑑賞	目標：学習指導要領の内容の理解	担当者：山田
第3回	教科の特徴・教材の効果的な活用のための材料、情報機器を含む用具、環境整備等 担当者：山田		目標：指導者として準備すべきことの理解
第4回	指導案を読む－年間計画について	担当者：山田	
第5回	指導案を読む－低学年・高学年の内容	目標：指導案の内容、書き方の理解	担当者：山田
第6回	教材研究「材料から」－材料の特性を生かした教材の理解と、それを生かすための道具の使用法		担当者：山田
第7回	教材研究「材料から」－教材の提案	目標：材料の特徴を生かした教材づくり	担当者：山田
第8回	指導案作成	目標：指導要領に基づいた指導案づくり	担当者：山田
第9回	教材研究「主題から」－主題を基にした教材の理解		担当者：隼瀬
第10回	教材研究「主題から」－教材の提案	目標：指導要領に基づいた教材づくり	担当者：隼瀬
第11回	指導案作成	目標：学年にあった内容に設定できる	担当者：隼瀬
第12回	指導案発表	担当者：隼瀬	
第13回	模擬授業	目標：実践的な指導法の理解（材料、情報機器を含む用具と環境を中心とした）	担当者：隼瀬
第14回	美術基礎理論・技法・美術史－美術用語、技法の確認		担当者：隼瀬
第15回	美術基礎理論・技法・美術史－鑑賞を基にした日本美術史、西洋美術史の理解		目標：指導力の強化 担当者：隼瀬

事前学修	2時間	小学校学習指導要領の予習。指導要領の構成、目標、内容についての予習。資料を読み疑問点を見つける。必要な材料、用具の用意。教材資料の準備。
事後学修	2時間	学習指導要領の内容の理解。指導要領の構成について復習する。指導案などを読み、配布資料をまとめ、理解を深める。指導案の内容、対象学年による計画の違いを復習する。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省	日本文教出版	9784536590112	なし
つくる・見る・学ぶ 美術のきほん	京都市立芸術大学美術教育研究会 日本文教出版編集部	日本文教出版	9784536649995	なし
参考資料	授業においてプリントを配布			

科目名	初等教科教育法（図画工作）			担当教員	早矢仕 晶子	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2ETM107
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や児童の表現の理解について講義する。					
到達目標及びテーマ	児童の表現を認め、生き生きとした活動を支えるため、小学校学習指導要領の内容を理解し、実践的な指導力を身につけることを目標とする。小学校における美術教育の役割を学ぶ。					
授業の概要	学習指導要領を理解するため、教材研究、学習指導案作成、作成した指導案に基づき模擬授業をおこなうなどする。また、指導に携わる者にふさわしい美術に関する基礎理論、技法、美術史を学ぶ。					

授業計画		
第1回	学習指導要領の構成	目標：学習指導要領の内容の理解
第2回	図画工作科の目標・表現と鑑賞	目標：学習指導要領の内容の理解
第3回	教科の特徴・教材の効果的な活用のための材料、情報機器を含む用具、環境整備等	目標：指導者として準備すべきことの理解
第4回	指導案を読む－年間計画について	
第5回	指導案を読む－低学年・高学年の内容	目標：指導案の内容、書き方の理解
第6回	教材研究「材料から」－材料の特性を生かした教材の理解と、それを生かすための道具の使用法	
第7回	教材研究「材料から」－教材の提案	目標：材料の特徴を生かした教材づくり
第8回	指導案作成	目標：指導要領に基づいた指導案づくり
第9回	教材研究「主題から」－主題を基にした教材の理解	
第10回	教材研究「主題から」－教材の提案	目標：指導要領に基づいた教材づくり
第11回	指導案作成	目標：学年にあった内容に設定できる
第12回	指導案発表	
第13回	模擬授業	目標：実践的な指導法の理解（材料、情報機器を含む用具と環境を中心とした）
第14回	美術基礎理論・技法・美術史－美術用語、技法の確認	
第15回	美術基礎理論・技法・美術史－鑑賞を基にした日本美術史、西洋美術史の理解	目標：指導力の強化

事前学修	2時間	小学校学習指導要領の予習。指導要領の構成、目標、内容についての予習。資料を読み疑問点を見つける。必要な材料、用具の用意。教材資料の準備。
事後学修	2時間	学習指導要領の内容の理解。指導要領の構成について復習する。指導案などを読み、配布資料をまとめ、理解を深める。指導案の内容、対象学年による計画の違いを復習する。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省	日本文教出版	9784536590112	なし
つくる・見る・学ぶ 美術のきほん	京都市立芸術大学美術教育研究会 日本文教出版編集部	日本文教出版	9784536649995	なし
参考資料	授業においてプリントを配布			

科目名	初等教科教育法（図画工作）			担当教員	高田 吉朗	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2ETM107
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や児童の表現の理解について講義する。					
到達目標及びテーマ	児童の表現を認め、生き生きとした活動を支えるため、小学校学習指導要領の内容を理解し、実践的な指導力を身につけることを目標とする。小学校における美術教育の役割を学ぶ。					
授業の概要	学習指導要領を理解するため、教材研究、学習指導案作成、作成した指導案に基づき模擬授業をおこなうなどする。また、指導に携わる者にふさわしい美術に関する基礎理論、技法、美術史を学ぶ。					

授業計画		
第1回	学習指導要領の構成	目標：学習指導要領の内容の理解
第2回	図画工作科の目標・表現と鑑賞	目標：学習指導要領の内容の理解
第3回	教科の特徴・教材の効果的な活用のための材料、情報機器を含む用具、環境整備等	目標：指導者として準備すべきことの理解
第4回	指導案を読む－年間計画について	
第5回	指導案を読む－低学年・高学年の内容	目標：指導案の内容、書き方の理解
第6回	教材研究「材料から」－材料の特性を生かした教材の理解と、それを生かすための道具の使用法	
第7回	教材研究「材料から」－教材の提案	目標：材料の特徴を生かした教材づくり
第8回	指導案作成	目標：指導要領に基づいた指導案づくり
第9回	教材研究「主題から」－主題を基にした教材の理解	
第10回	教材研究「主題から」－教材の提案	目標：指導要領に基づいた教材づくり
第11回	指導案作成	目標：学年にあった内容に設定できる
第12回	指導案発表	
第13回	模擬授業	目標：実践的な指導法の理解（材料、情報機器を含む用具と環境を中心とした）
第14回	美術基礎理論・技法・美術史－美術用語、技法の確認	
第15回	美術基礎理論・技法・美術史－鑑賞を基にした日本美術史、西洋美術史の理解	目標：指導力の強化

事前学修	2時間	小学校学習指導要領の予習。指導要領の構成、目標、内容についての予習。資料を読み疑問点を見つける。必要な材料、用具の用意。教材資料の準備。
事後学修	2時間	学習指導要領の内容の理解。指導要領の構成について復習する。指導案などを読み、配布資料をまとめ、理解を深める。指導案の内容、対象学年による計画の違いを復習する。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省	日本文教出版	9784536590112	なし
つくる・見る・学ぶ 美術のきほん	京都市立芸術大学美術教育研究会 日本文教出版編集部	日本文教出版	9784536649995	なし
参考資料	授業においてプリントを配布			

科目名	初等教科教育法（図画工作）			担当教員	西村 志磨	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED2ETM107
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や児童の表現の理解について講義する。					
到達目標及びテーマ	児童の表現を認め、生き生きとした活動を支えるため、小学校学習指導要領の内容を理解し、実践的な指導力を身につけることを目標とする。小学校における美術教育の役割を学ぶ。					
授業の概要	学習指導要領を理解するため、教材研究、学習指導案作成、作成した指導案に基づき模擬授業をおこなうなどする。また、指導に携わる者にふさわしい美術に関する基礎理論、技法、美術史を学ぶ。					

授業計画		
第1回	学習指導要領の構成	目標：学習指導要領の内容の理解
第2回	図画工作科の目標・表現と鑑賞	目標：学習指導要領の内容の理解
第3回	教科の特徴・教材の効果的な活用のための材料、情報機器を含む用具、環境整備等	目標：指導者として準備すべきことの理解
第4回	指導案を読む－年間計画について	
第5回	指導案を読む－低学年・高学年の内容	目標：指導案の内容、書き方の理解
第6回	教材研究「材料から」－材料の特性を生かした教材の理解と、それを生かすための道具の使用法	
第7回	教材研究「材料から」－教材の提案	目標：材料の特徴を生かした教材づくり
第8回	指導案作成	目標：指導要領に基づいた指導案づくり
第9回	教材研究「主題から」－主題を基にした教材の理解	
第10回	教材研究「主題から」－教材の提案	目標：指導要領に基づいた教材づくり
第11回	指導案作成	目標：学年にあった内容に設定できる
第12回	指導案発表	
第13回	模擬授業	目標：実践的な指導法の理解（材料、情報機器を含む用具と環境を中心とした）
第14回	美術基礎理論・技法・美術史－美術用語、技法の確認	
第15回	美術基礎理論・技法・美術史－鑑賞を基にした日本美術史、西洋美術史の理解	目標：指導力の強化

事前学修	2時間	小学校学習指導要領の予習。指導要領の構成、目標、内容についての予習。資料を読み疑問点を見つける。必要な材料、用具の用意。教材資料の準備。
事後学修	2時間	学習指導要領の内容の理解。指導要領の構成について復習する。指導案などを読み、配布資料をまとめ、理解を深める。指導案の内容、対象学年による計画の違いを復習する。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省	日本文教出版	9784536590112	なし
つくる・見る・学ぶ 美術のきほん	京都市立芸術大学美術教育研究会 日本文教出版編集部	日本文教出版	9784536649995	なし
参考資料	授業においてプリントを配布			

科目名	初等教科教育法（家庭）			担当教員	本多 恭子、日比 純子
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3ETM208
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭(講師を含む)				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、家庭科教育の意義や指導方法について講義する。				
到達目標及びテーマ	家庭科を学ぶ意義を知識と共に実習という「体験」を通じて感じ取り、併せて指導案を作成するなかで「生活を見つめ、よりよくする工夫」＝「生きる力」を培うための資質を身に付ける。				
授業の概要	小学校学習指導要領に示された内容の理解を図ると共に、年間指導計画、題材の指導計画、学習過程の在り方、評価の在り方、指導法、指導の留意点等について学ぶ。				

授業計画	
第1回	家庭科の指導目標と指導内容、家庭科の指導の特質（日比、本多）【事前学習】学習指導要領「家庭科」、教科書を読んでくる。 【事後学習】家庭科学習の指導内容と授業の特徴について感想をまとめる。
第2回	被服製作の基礎・手縫い（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。 題材の指導計画と評価（本多）【事前学習】学習指導要領「家庭科」を読んでくる。【事後学習】食物の学習の評価内容と評価方法を考える。
第3回	被服製作の基礎・ミシン縫いとアイロンの安全指導と使い方（日比）【事前学習】教科書にあるミシンの構造と扱い方を読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。 家族と家庭の仕事（本多）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】家庭の仕事への参加について感想をまとめる。
第4回	被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作（日比）【事前学習】生活に役立つものの製作について、教科書の内容を読んでくる。【事後学習】児童にとって難しいと予想されるところについてまとめる。 五大栄養素のはたらきと食品（DVD視聴とその活用）（本多）【事前学習】五大栄養素のはたらきについて調べる。【事後学習】自分の今日の栄養のとり方をチェックする。
第5回	被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作と作品評価のあり方（日比）【事前学習】前回の復習を行う。【事後学習】指導のポイントをまとめる。 栄養バランスのよい食事の実習（本多）【事前学習】集団学習の能率的な手順を考えてくる。【事後学習】野菜を使った調理をしレポートにまとめる。
第6回	衣生活と住生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】掃除を実践して、教材の有効性の観点からレポートにまとめる。 学習指導案の作成と情報機器を活用した模擬授業の実施（本多）【事前学習】指示された教科書の内容を読み、指導案を作成してくる。【事後学習】学習指導案の修正と授業内容の改善を行う。
第7回	消費生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導のポイントをまとめる。 ご飯とみそ汁の調理（本多）【事前学習】米と味噌の歴史的背景を調べる。【事後学習】ご飯とみそ汁を作りレポートにまとめる。
第8回	家庭科の授業づくりで大切にしたいこと（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】教師として家庭科の授業で大切にしたいことをまとめる。 食育の推進と郷土の食べ物（情報機器を活用した模擬授業の実施）（本多）【事前学習】情報機器を活用し郷土料理に関する資料を作成する。【事後学習】授業内容の改善を行う。
第9回	被服製作の基礎・手縫い（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。 題材の指導計画と評価（本多）【事前学習】学習指導要領「家庭科」を読んでくる。【事後学習】食物の学習の評価内容と評価方法を考える。
第10回	被服製作の基礎・ミシン縫いとアイロンの安全指導と使い方（日比）【事前学習】教科書にあるミシンの構造と扱い方を読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。 家族と家庭の仕事（本多）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】家庭の仕事への参加について感想をまとめる。
第11回	被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作（日比）【事前学習】生活に役立つものの製作について、教科書の内容を読んでくる。【事後学習】児童にとって難しいと予想されるところについてまとめる。 五大栄養素のはたらきと食品（DVD視聴とその活用）（本多）【事前学習】五大栄養素のはたらきについて調べる。【事後学習】自分の今日の栄養のとり方をチェックする。

第12回	被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作と作品評価のあり方（日比）【事前学習】第11回目の復習を行う。【事後学習】指導のポイントをまとめる。 栄養バランスのよい食事の実習（本多）【事前学習】集団学習の能率的な手順を考えてくる。【事後学習】野菜を使った調理をしレポートにまとめる。
第13回	衣生活と住生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】掃除を実践して、教材の有効性の観点からレポートにまとめる。 学習指導案の作成と情報機器を活用した模擬授業の実施（本多）【事前学習】指示された教科書の内容を読み、指導案を作成してくる。【事後学習】学習指導案の修正と授業内容の改善を行う。
第14回	消費生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導のポイントをまとめる。 ご飯とみそ汁の調理（本多）【事前学習】米と味噌の歴史的背景を調べる。【事後学習】ご飯とみそ汁を作りレポートにまとめる。
第15回	家庭科の授業づくりで大切にしたいこと（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】教師として家庭科の授業で大切にしたいことをまとめる。 食育の推進と郷土の食べ物（情報機器を活用した模擬授業の実施）（本多）【事前学習】情報機器を活用し郷土料理に関する資料を作成する。【事後学習】授業内容の改善を行う。

事前学修	2時間	小学校学習指導要領や家庭科の教科書を読み、要点を整理してまとめる。
事後学修	2時間	大切な用語や要点をノートやレポートに記述してまとめ、基礎技能を習得して学習成果とする。
フィードバックの方法	レポート等を授業内に返却し、個別にコメントをする他、総合評価をする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
レポート		40%	課題について調べ、内容が的確にまとめられているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価		60%	授業への参加度、作品での評価。
補足事項	この授業はクラスを2つのグループに分け2つの教室で実施し、第9回目に受講生が入れ替わります。 被服製作及び食物調理実習に関わる実習費を集めます。 実施の都合上、授業内容が入れ替わる場合もあります。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科 5・6	文部科学省検定教科書	開隆堂	978-4-304-08086-9	全員必携。購入していない場合は受講を認めない。
参考資料	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編			

科目名	初等教科教育法（家庭）			担当教員	南谷 東子、日比 純子
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3ETM208
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭(講師を含む)				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、家庭科教育の意義や指導方法について講義する。				
到達目標及びテーマ	家庭科を学ぶ意義を知識と共に実習という「体験」を通じて感じ取り、併せて指導案を作成するなかで「生活を見つめ、よりよくする工夫」＝「生きる力」を培うための資質を身に付ける。				
授業の概要	小学校学習指導要領に示された内容の理解を図ると共に、年間指導計画、題材の指導計画、学習過程の在り方、評価の在り方、指導法、指導の留意点等について学ぶ。				

授業計画	
第1回	家庭科の指導目標と指導内容、家庭科の指導の特質（日比、南谷）【事前学習】学習指導要領「家庭科」、教科書を読んでくる。 【事後学習】家庭科学習の指導内容と授業の特徴について感想をまとめる。
第2回	題材の指導計画と評価（南谷）【事前学習】学習指導要領「家庭科」を読んでくる。【事後学習】食物の学習の評価内容と評価方法を考える。 被服製作の基礎・手縫い（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。
第3回	家族と家庭の仕事（南谷）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】家庭の仕事への参加について感想をまとめる。 被服製作の基礎・ミシン縫いとアイロンの安全指導と使い方（日比）【事前学習】教科書にあるミシンの構造と扱い方を読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。
第4回	五大栄養素のはたらきと食品（DVD視聴とその活用）（南谷）【事前学習】五大栄養素のはたらきについて調べる。【事後学習】自分の今日の栄養のとり方をチェックする。 被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作（日比）【事前学習】生活に役立つものの製作について、教科書の内容を読んでくる。【事後学習】児童にとって難しいと予想されるところについてまとめる。
第5回	栄養バランスのよい食事の実習（南谷）【事前学習】集団学習の能率的な手順を考えてくる。【事後学習】野菜を使った調理をしレポートにまとめる。 被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作と作品評価のあり方（日比）【事前学習】第11回目の復習を行う。【事後学習】指導のポイントをまとめる。
第6回	学習指導案の作成と情報機器を活用した模擬授業の実施（南谷）【事前学習】指示された教科書の内容を読み、指導案を作成してくる。【事後学習】学習指導案の修正と授業内容の改善を行う。 衣生活と住生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】掃除を実践して、教材の有効性の観点からレポートにまとめる。
第7回	ご飯とみそ汁の調理（南谷）【事前学習】米と味噌の歴史的背景を調べる。【事後学習】ご飯とみそ汁を作りレポートにまとめる。 消費生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導のポイントをまとめる。
第8回	食育の推進と郷土の食べ物（情報機器を活用した模擬授業の実施）（南谷）【事前学習】情報機器を活用し郷土料理に関する資料を作成する。【事後学習】授業内容の改善を行う。 家庭科の授業づくりで大切にしたいこと（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】教師として家庭科の授業で大切にしたいことをまとめる。
第9回	題材の指導計画と評価（南谷）【事前学習】学習指導要領「家庭科」を読んでくる。【事後学習】食物の学習の評価内容と評価方法を考える。 被服製作の基礎・手縫い（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。
第10回	家族と家庭の仕事（南谷）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】家庭の仕事への参加について感想をまとめる。 被服製作の基礎・ミシン縫いとアイロンの安全指導と使い方（日比）【事前学習】教科書にあるミシンの構造と扱い方を読んでくる。【事後学習】指導ポイントをまとめる。
第11回	五大栄養素のはたらきと食品（DVD視聴とその活用）（南谷）【事前学習】五大栄養素のはたらきについて調べる。【事後学習】自分の今日の栄養のとり方をチェックする。 被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作（日比）【事前学習】生活に役立つものの製作について、教科書の内容を読んでくる。【事後学習】児童にとって難しいと予想されるところについてまとめる。

第12回	栄養バランスのよい食事の実習（南谷）【事前学習】集団学習の能率的な手順を考えてくる。【事後学習】野菜を使った調理をしレポートにまとめる。 被服製作の基礎、ミシン縫い、手縫いを生かした生活に役立つものの製作と作品評価のあり方（日比）【事前学習】第11回目の復習を行う。【事後学習】指導のポイントをまとめる。
第13回	学習指導案の作成と情報機器を活用した模擬授業の実施（南谷）【事前学習】指示された教科書の内容を読み、指導案を作成してくる。【事後学習】学習指導案の修正と授業内容の改善を行う。 衣生活と住生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】掃除を実践して、教材の有効性の観点からレポートにまとめる。
第14回	ご飯とみそ汁の調理（南谷）【事前学習】米と味噌の歴史的背景を調べる。【事後学習】ご飯とみそ汁を作りレポートにまとめる。 消費生活（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】指導のポイントをまとめる。
第15回	食育の推進と郷土の食べ物（情報機器を活用した模擬授業の実施）（南谷）【事前学習】情報機器を活用し郷土料理に関する資料を作成する。【事後学習】授業内容の改善を行う。 家庭科の授業づくりで大切にしたいこと（日比）【事前学習】指示された教科書の内容について読んでくる。【事後学習】教師として家庭科の授業で大切にしたいことをまとめる。

事前学修	2時間	小学校学習指導要領や家庭科の教科書を読み、要点を整理してまとめる。
事後学修	2時間	大切な用語や要点をノートやレポートに記述してまとめ、基礎技能を習得して学習成果とする。
フィードバックの方法	レポート等を授業内に返却し、個別にコメントをする他、総合評価をする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
レポート		40%	課題について調べ、内容が的確にまとめられているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価		60%	授業への参加度、作品での評価。
補足事項	この授業はクラスを2つのグループに分け2つの教室で実施し、第9回目に受講生が入れ替わります。 被服製作及び食物調理実習に関わる実習費を集めます。 実施の都合上、授業内容が入れ替わる場合もあります。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科 5・6	文部科学省検定教科書	開隆堂	978-4-304-08086-9	全員必携。購入していない場合は受講を認めない。
参考資料	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編			

科目名	初等教科教育法（体育）			担当教員	稲垣 良介
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ETM109
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かし、小学校の体育授業に密接に関連させながら体育の目標、内容、方法について講義する。				
到達目標及びテーマ	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、健康の保持増進と体力向上を図り、楽しく明るい生活を営むための態度を育む体育授業のあり方を学ぶことができる。加えて、適切な運動の経験と健康・安全 への理解が、生涯スポーツ実践の基礎的力となることを理解する。				
授業の概要	身体教育、運動による教育、運動の教育と変遷してきた体育授業を行う背景を概観する。そして、現在の体育授業で求められる目標・内容・方法をとらえ、運動・スポーツ実践によって生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を養う体育授業づくりについて学ぶ。なお、使用可能な体育施設の状況に応じて、授業の進度に沿って身体活動を伴う内容を随時扱う予定である。				

授業計画	
第1回	授業の進め方と評価について
第2回	なぜ体育科教育法を学ぶのか／グルーピング・アイスブレイキング／授業を貫く問いについて
第3回	よい体育授業とは① 体育の目的を通して
第4回	よい体育授業とは② 実際の授業を通して
第5回	よい体育授業とは③ 学習指導要領を通して
第6回	よい体育授業とは④ 学習評価を通して
第7回	体育教材の特徴と指導内容① 運動能力・発達段階の視点から
第8回	体育教材の特徴と指導内容② ドッジボールを通して
第9回	体育の教材研究① 生徒・地域実態に着目して
第10回	体育の教材研究② 教材・教具・情報機器（PC・タブレット等）に着目して
第11回	体育の教材研究③ 実際の運動を通して
第12回	体育の教材研究④ 体育の教育内容と安全教育・ゲストスピーカー（吉川優子先生）のご講演から学ぶ
第13回	体育をいかに教えるか① 学習計画・学習指導案の仕組み
第14回	体育をいかに教えるか② 学習指導案の作成
第15回	体育をいかに教えるか③ 模擬授業・情報機器の効果的活用

事前学修	2時間	講義前に体育授業の問題点を把握しておく。毎時間に学ぶ内容を予習する。
事後学修	2時間	レポート課題に向けて、ノートの内容を整理する。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		50%	毎時間授業で使用する学習プリントの記載内容(25％)、計3回課す小レポートの記載内容(25％)
上記以外の試験・平常点評価		50%	授業の参加度(授業中の発言内容)
定期試験		0%	
補足事項	教科書は、体育授業づくり入門第7版を使用します。 最新版（第7版）は、大学の書店で購入できます。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校の体育授業づくり入門 第7版	鈴木秀人他	学文社	978 4 7620-3423-7	なし
小学校学習指導要領解説体育 編	文部科学省	東洋館出版社	9784491034676	なし
参考資料				

科目名	初等教科教育法（英語）			担当教員	加藤 拓由	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED2ETM210
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	小中学校現場での指導経験を生かし、英語教育の意義や教師の役割について講義する					
到達目標及びテーマ	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の教材研究、教科指導、評価に関する基本的な知識や指導方法を習得することができる。					
授業の概要	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境、児童期の第二言語習得の特徴を理解し、実践に必要な基本的な指導技術や実際の授業づくりに必要な知識・技術を身につける。					

授業計画						
第1回	第一部 Unit 1 外国語活動と外国語の目標 (p.10～p.13)		Unit 2 小・中連携と小学校の役割 (p.14～p.17)			
第2回	第三部 Unit 1 小学校教育の理念と現状の理解 (p.138～p.141) 続 (p.142～p.145)		Unit 2 中学年外国語活動から高学年外国語科への接			
第3回	第三部 Unit 3 発達心理学の基礎 (p.146～p.149)		Unit 5 児童の認知・情緒発達に即した指導法 (p.154～p.157)			
第4回	第三部 Unit 6 学級担任と外部指導者とのチーム・ティーチング (p.158～p.161) らす指導 (p.162～p.165)		Unit 7 ことばへの気づきをもた			
第5回	第一部 Unit 4 言語使用を通した言語習得・音声によるインプット (p.22～p.25) や場面、状況を明確にした言語活動 (p.26～p.29)		Unit 5 コミュニケーションの目的			
第6回	第一部 Unit 6 音声から文字へ (p.30～p.33)		Unit 9 「読むこと」と「書くこと」への導き方 (p.42～p.45)			
第7回	第一部 Unit 7 国語教育との連携 (p.34～p.37)		Unit 8 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk (p.38～p.41)			
第8回	第一部 Unit 10 題材の選定と教材 (p.46～p.49) (p.50～p.53)		Unit 11 学習到達目標、指導計画 (カリキュラム・マネジメント)			
第9回	第一部 Unit 13 ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方 (p.58～p.61) 用 (p.62～p.65)		Unit 14 デジタル教科書の活			
第10回	第一部 Unit 15 外国語科の学習評価 (p.66～p.71)		第三部 Unit 8 外国語活動の学習評価 (p.166～p.169)			
第11回	指導案の検討・模擬授業・ビデオ研究の準備 / まとめの小テスト					
第12回	模擬授業・ビデオ研究およびディスカッション (グループ 1・2 中学年 3年生の授業)					
第13回	模擬授業・ビデオ研究およびディスカッション (グループ 3・4 中学年 4年生の授業)					
第14回	模擬授業・ビデオ研究およびディスカッション (グループ 5・6 高学年 5年生の授業)					
第15回	模擬授業・ビデオ研究およびディスカッション (グループ 7・8 高学年 6年生の授業)					

事前学修	2時間	発表者はテキストの担当箇所を簡潔にわかりやすく説明できるよう、A4一枚に簡潔にまとめる。発表者以外は、テキストを熟読し、発表者に質問したり、「Discussion Topic」について議論したりできるようにしておく。 また、11回には「学びのキーワード」から抽出し、まとめの小テストを行う。
事後学修	2時間	授業で仲間と議論したり、学んだりしたことを元に、理解度チェックのための小レポートを400字以上で書く。提出は決められた期限内にユニバに提出する。
フィードバックの方法	教員は、UNIPAによる理解度チェックのためのレポートに点数をつけてフィードバックする。 また、学生からの質問やコメントに対しては、UNIPAやメールなどで該当者にフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	20%	学びのキーワードテスト 20点

上記以外の試験・平常点評価	15%	発表・ディスカッションの準備・参加度
上記以外の試験・平常点評価	45%	理解度チェックのためのレポート
上記以外の試験・平常点評価	20%	模擬授業・授業反省会の準備・参加度
定期試験	0%	実施しない
補足事項	本授業では、グループの仲間と協力し、発表や模擬授業を協働学習を進める。そのため、他人と円滑なコミュニケーションを行ない、協力一致して課題を遂行する協調的な学修態度が求められる。このことを十分に理解した上で履修をして欲しい。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語 はじめる教科書 (改訂 3 版)	吉田研作(編) 小川隆夫・東 仁美(著)	(株)mpi	978-4-89643-863-5	なし
New Horizon Elementary 5	アレン玉井光江・阿野幸一・ 濱中紀子 他	東京書籍	978-4-487-10685-1	なし
New Horizon Elementary 6	アレン玉井光江・阿野幸一・ 濱中紀子 他	東京書籍	978-4-487-10687-5	なし
New Horizon Elementary Picture Dictionary	アレン玉井光江・阿野幸一・ 濱中紀子 他	東京書籍	978-4-487-10686-8	なし
参考資料	必要に応じて授業内で配布			